横須賀小景

芥川龍之介

カフエ

僕は或カフエの隅に半熟の卵を食べてゐた。するとぼんやりした人が一人、僕のテエブルに腰をおろした。僕は驚いてその人をながめた。その人は妙にどろりとした、薄い生海苔（なまのり）の洋服を着てゐた。

虹

僕はいつも煤（すす）の降る工廠（こうしやう）の裏を歩いてゐた。どんより曇つた工廠の空には虹が一すぢ消えかかつてゐた。

僕は踵（かかと）を擡（もた）げるやうにし、ちよつとその虹へ鼻をやつて見た。すると――かすかに石油の匂がした。

五分間写真

僕は或晩春の午後、或若い海軍中尉と五分間写真を映しに行つた。写真はすぐに出来上つた。しかし印画に映つたのは大きいⅥといふ羅馬（ロオマ）数字だつた。

小さい泥

僕は或十二三のお嬢さんの後ろを歩いて行つた。お嬢さんは空色のフロツクの下に裸の脚を露（あらは）してゐた。その又脚には小さい泥がたつた一つかすかに乾いてゐた。

僕はこのお嬢さんの脚の上の泥を眺めて行つた。すると泥はいつの間にかアメリカ大陸に変つてゐた。山脈や湖や鉄道も一々はつきり盛り上つてゐた。

僕はおやと思つてお嬢さんを探した。が、お嬢さんは見えなかつた。僕の前には横須賀軍港がひろがり、唯一面に三角の波が立つたり倒れたりしてゐるだけだつた。

――旧稿より――

底本：「芥川龍之介全集　第十三巻」岩波書店
１９９６（平成８）年11月8日発行
入力：もりみつじゅんじ
校正：林　幸雄
２００２年１月26日公開
２００４年３月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。